

令和元年度高槻わかば幼稚園学校自己評価結果公表シート

1、本園の教育目標

夢のある楽しい活動や体育活動などを通して豊かな心を育て、脳や感覚、基礎的運動能力の発達をはかり、将来の学習に対応できる十分な力を養うことを本園の教育の目的とする。

2、本年度重点的に取り組む目標

新幼稚園教育要領における「幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿」を中心に、共通理解をはかり、園内研修等を通して教員集団としての質を高める。また、昨年より園内研修において「マナー研修」を行っているが、形だけではなく相手を思いやる気持ちを醸成し、職員同士、また保護者と協力的に教育環境を作り上げていく。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み
1) 教育課程の編成と共通理解	1) 今年度は園内研修を5領域に立ち返って、幼稚園本来の保育のあり方を模索した。
2) 教職員個々の資質を高める取り組み	2) 外部講師を招いての研修とともに園内で学年をまたいでの公開保育を行った。
3) 子どもたちの情報の共有	3) 昨今様々な困難を抱える子どもが増加していることから情報をできるだけ細かく共有した。
4) 子どもたちの自発性や知力を高める取り組み	4) 子どもたちから意見を聞いて引き出すとともに、図鑑やインターネットなどを使って調べる。また保育者が適度に介入して知性と自主性が総合的に発展するように努める。
5) 保護者との連携	5) 保護者会は廃止しているが、行事等でボランティアを募り、保護者にも自発的に協力してもらうように努める。
6) 防犯対策	6) 防犯訓練を年内に複数回行い、子どもたちに対してだけではなく、職員間の防犯意識を醸成する。
7) 施設の安全対策	7) 園内のすべて遊具の安全点検を複数回

	<p>行う。</p> <p>8) 職員の負担軽減とともに保護者の利便性を図るために園児管理システム Brain を導入した。</p> <p>9) 園外の未就園児を収容できる施設「ラビーハウス」で未就園児教室を行い、これによって園内の行事に左右されずに未就園児に対応できるようにした。</p>
--	---

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

職員研修を通して「幼児期のおわりまでに育ててほしい 10 の姿」について一定の共通理解をはかるとともに 5 領域に立ち返って幼稚園本来の教育について掘り下げるように努めた。またここ数年続けている園内での公開保育によって自分の保育のあり方を見つめなおし、他の教諭の保育を肯定的に評価することによって職員集団としてチームワークを重視した活動ができた。

5、今後取り組むべき課題

教職員の業務負担を軽減して、もって保育に専念できる環境を作り質の向上をはかる。またその方策を考える。

預かり保育を利用する園児の屋内環境をどう整えてゆくかが課題である。また、未就園児を幼稚園の中でどのように位置づけて取り組んでいくかについても検討を要する。

また、今後とも園内研修を積極的に行い、教員相互で見せ合うことと進めてゆく。そのことによって所謂風通しの良い園運営を行う。

園外に未就園児に対応できる施設を作ったがそれによって園の行事などに左右されずに年齢に適した保育を行えるようにする。

6、財務状況について

公認会計士による監査の結果、適正に運営されていると認められている。

7、学校関係者評価

運営は適切であり、特に指摘すべき事項はなく妥当である。